

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

内・外房線を中心に動物との衝突急増 ワンマン^{運転拡大}中止と早急な対策を

動物との衝突事故（千葉支社内の主な路線）

線区	18年度	19年度
内房線	35件	52件
外房線	20件	28件
総武本線		4件
成田線		3件
久留里線		1件
千葉支社管内	68件	95件

※主にイノシシ、シカ、キョンなど

20年度はすでに昨年度件数こえる

この間、内・外房線を中心に動物との衝突事故が急増しています。7月31日の動労千葉との団体交渉で千葉支社は、支社管内全体で18年度は68件、19年度は95件と回答しました。

とくに内房線、外房線での件数が多くなっています。昨年度では内房線の上総湊〜竹岡間で18件、竹岡〜浜金谷間で10件、外房線の浪花〜鵜原間で14件、興津〜安房天津間で4件発生している」と回答しています。

会社は、「鉄分を与える」「オオカミの尿を設置する」等の対策を行っている」と回答しましたが、件数が増えているのが現実です。

動労千葉は柵やネットの設置、沿線の除草の徹底などを要求しました。今年度はすでに昨年度を超える件数の衝突が起っています。動物が生きていた場合、車外

の対応は危険です。また、このところイノシシの豚熱感染の拡大が報じられています。衝突後の対応では感染症の危険性もあります。

衝突時の対応に車掌は必要

動物との衝突で車両が故障した場合、車両の確認や処置も必要になります。駅間での停車確認が必要になれば、抑止手配も必要です。ワンマン化されれば指令への連絡ややり取り、乗客への案内も含めて、すべて一人で行わなければなりません。

駅間停車の場合も、車掌がいれば、乗客に状況を案内し、車外へ出ないよう呼びかけを適宜行うことができます。運転士一人で、車両の確認と乗客への案内を同時に行うことはできません。万が一、乗客が線路上に降りてしまったらどうするのでしょうか？ 安全確保のためにも車掌は絶対に必要です。

ワンマン運転拡大は中止すべき

動物との衝突多発で、運転士はただでさえ神経を使って運転せざるを得ません。そんな中でワンマン化となれば、運転士への負担はさらに大きくなります。会社の儲けのために安全を犠牲にして車掌を削減し、運転士への負担を強いるなど許されません。ワンマン運転拡大はただちに中止するべきです。